

# ACNC News Letter

発行  
特定非営利活動法人  
あいち・子どもNPOセンター



〒460-0003 名古屋市中区錦3丁目2-3 2 錦アクシビル2階  
TEL&FAX:(052)253-6398  
e-mail:aichi-kodomo@mountain.ocn.ne.jp  
HP: <http://aichi-kodomo.sakura.ne.jp>

## 小1から中3まで一緒に学ぶ「にじの丘学園」

特定非営利活動法人 あいち・子どもNPOセンター  
代表理事 鈴木 賢一

瀬戸市立「にじの丘学園」は、小学1年生から中学3年生までが同じ校舎の中で学ぶ「施設一体型小中一貫校」と呼ばれる新しいタイプの学校です。令和2年4月瀬戸市の中心にある5つの小学校と2つの中学校が統合されて開校しました。にじの丘学園には、小学校の校長先生と中学校の校長先生がそれぞれいますが、小中学校の先生たちは同じ職員室で協力しながら学校運営にあたっています。これまで日本の学校は、6年間の小学校と3年間の中学校で学ぶ6-3制でしたが、義務教育の9年間を子どもの発達段階に沿って一貫して見守る制度が整えられるようになりました。例えば北欧の国々では早くからこうした仕組みを取り入れ成果を上げています。小学校と中学校が連続することで、中一ギャップと言われる課題の解消が期待されたり、小学校から専門的学習指導を受けられる態勢が可能となり、大きな期待が寄せられています。全体的には子どもの数が減少傾向にあり、規模が小さく老朽化した学校を複数運営する財力が確保できないという現実的な問題もあります。

さて、「にじの丘学園」は、愛知県内で飛島学園（飛島村）、笹島小中学校（名古屋市）、竹の山小学校・日進北中学校（日進市）に継ぐ4校目の施設一体型小中学校です。私はこれら校舎の設計に関する専門家として参画しており、瀬戸でも実現への検討が具体化して以降、小中一貫校施設整備委員（平成28年度）、小中一貫校開校準備委員（平成29年6月～令和2年3月）として関わってきました。

5つの小学校と2つの中学校は歴史ある学校で、地域からは学校が統廃合されることに大きな戸惑

い、不安、反対が表明されました。地域の学校がなくなることは、地域の将来が失われるようなものです。さらには、



小中一貫教育は親世代のみならず小中学校の教員にとってもが経験したことのない新しい教育システムで、その意義を問う声が数多く寄せられました。

それら一つ一つの不安や疑問に答えるべく、行政は連日連夜地域説明会を開催し理解を求めることになりました。一方私は、新たな学校校舎の根幹となる理念づくりのワークショップを任せられ、新しい校舎を地域住民、教員など関係者の皆さんの声を聞きつつまとめ上げました。キーワードは、地域と学校の連携、小中の交流です。複数のコミュニティが一丸となって新しい学校を支える体制を作ることができるか、小学生と中学生、小中の先生同士が自然に混じり合うことのできる空間はどうあるべきか議論を重ねました。

新しい学校は、地域の見守りのおかげでバス通学を含む安全でスムーズな登下校が実現しています。また、校舎の中央吹き抜けの空間に小中学生が自然に交流することのできる図書スペースが設けられ、お気に入りの場所になっています。開校直後にコロナ禍に襲われ、休校を余儀なくされましたが、今現在は地域一丸となって活気ある学校となっています。私も学校運営協議会の一員として継続的に関わっています。



# 人はなぜ愛する我が子を虐待するのか

日時：令和4年3月27日 13:30~15:30

場所：あいち・子どもNPOセンター

講師：大岡啓二さん（元名古屋市児童虐待室主査）

この学習会は、2月13日(日)に予定していましたが、新型コロナウイルス(オミクロン株)の影響で、まん延防止等重点措置が愛知県に発出されていたことにより、延期して実施しました。

講師の大岡さんは、元名古屋市職員。仕事で出会った民生委員さんのつぶやきが印象に残っていました。「ほんと、今の人たちはめぐまれているわよねえ」「なのに、親として自覚がちっともないから困ったものねえ」確かに行政の立場は、「子育ては親に第一義的責任がある」です。一方あるNPO団体の方のつぶやきは「所詮、人間の子どもは親だけでは育てられないのよね」この言葉が心にずっと引っかかっていたそうです。

平成23年に名古屋市内に起きた児童虐待死亡事件を契機に設置された児童虐待対策室に平成27年度から着任され、少しでも子どもの危機を感じたら「躊躇なく親から引き離す」という方針をとらざるを得ない現状と、そこにまつわる多くの理不尽や矛盾に愕然としたそうです。早期退職したのち、児童虐待の根本原因の解明というテーマに挑戦し、「人はなぜ愛する我が子を虐待するのか」を上梓されました。今回はその著書の内容を中心にお話いただきました。



児童虐待は繰り返し起き、どこの家庭でも起こりうる一般的な問題であり、社会問題であるはずですが、個人の責任にすり替えられています。そして、その根本原因はほとんど解明されていません。そこで、人間とは何か？人間の子育てとは何か？を考えるにあたり、人類の進化から見つめていきました。直立二足歩行になったことにより骨盤の形状が変化し、出産が困難になり、人間の子どもは早産で未熟なうちに生まれるようになったのです。その上、成長が遅く非常に長い子育て期間が必要です。子育てが終わらないうちに次の子どもが生まれ、成長段階の異なる子どもを同時に何人も育てることになるのです。

また、暮らしぶりも原始の時代は集団による共同生活が主体で、血のつながりを越えて助け合い、集団による子育てが人間本来の子育てでした。しかし、個人主義の潮流、地域のコミュニティの消滅により、現代の子育ては「孤育て」「ワンオペ育児」人類史上初めての子育てを経験しています。親が親だけの責任で「私的」に子育てをすることの問題点は、親が子どもを私物化し、家庭という他人の目の届かない密室空間が悲劇を生む要因となります。親が描く理想像に近づけるため、真逆であるはずのしつけから虐待へと一線を越えていってしまいます。本来なら子ども自身が描くなりたいた姿を目指して、子どもが主体的に学び、経験し努力していくものです。励まし、援助し、見守り続けるのが親の務めといえましょう。子どもには子どもの人格があり、自由があり、人権があるのですから・・・。



講師からいくつかのワードを提示されました。

- 子育ては親の責任か
- 家庭の子育て力が低下したのは本当か
- 「しつけ」とは何か
- 親の役割とは

これらのワードを手掛かりに、グループトークを行い、学びを深めました。グループトークでは、参加者が日々の活動の中で出会う親子の姿を報告することで、現代の子育て事情が如実に見えてきました。

インターネットの普及で情報過多な現状の指摘もあり、子育てに関わる問題の難しさを痛感しました。しかし、一人では限界があるものの多くの仲間たちと知恵を出し合い、地域の子育て伴走者となるべく努力したいと決意も新たにしました。

(文責：岩根)

## 名古屋地区若者・外国人未来応援事業の報告と今後の課題

名古屋地区の学習支援（学習会）は6年目となりました。高認を受験する方も増え、8月と11月の試験直前は過去問に取り組む方が多く、これまでにない緊張感がありました。参加者数は年々増えており、自分自身で学習を進めてもらう過程で、困った時や重要なポイントでスタッフがフォローする方針で、参考書を読んだり問題演習をしてもらったりする自習の時間を組み合わせながら対応しています。勉強自体へのサポートは一通りできていますが、本当は興味を持った参加者と少し発展的なトピックに挑戦したり、仕事や日常のちょっとした雑談をしたりする余裕も大事にしたいところです。

初めての方と学習方針の面談をすると、高認を効率よく解くテクニックをとにかく教えて欲しいとおっしゃる方もおられますが、高認はあくまでも一つの資格であることを確認し、何のために勉強するのか、今のどのくらいのレベルの問題にどのくらい時間をかけて取り組むべきか、一緒に考える時間を意識しています。どんどん学習を進めていきたい方にとってはもどかしい時間だと思うのですが、つながりをつくり、継続して学習に取り組むために大切だと考えています。初めて参加される方のきっかけは様々ですが、最近はインターネットで情報を見つけて参加される方がみえます。今後は広報の方法も考える必要がありそうです。

コロナ以来少なかった、外国にルーツのある方も今年は参加いただいています。日本語の学習を進めながら高認の学習を進めるのは大変なことですが、継続して頑張っている方がいます。必要に応じてポケトーク（翻訳機）などを使いながら対応しています。また、日本語能力試験のテキスト、小学校～中学校レベルの国語の問題集を充実させました。

今後の課題は、高認合格後のフォローです。私たちができる直接的なサポートは高認合格を目指した学習ですが、その先にある進学や就職の実現に向けた情報提供や悩みに向き合うために他の支援ネットワークへの接続をつくること、私たちスタッフが選択肢を知りたいことを意識していきたいと思えます。

（名古屋地区担当 船橋 理仁）

## 一宮地区若者・外国人未来応援事業の経緯と今後についての報告

## ① 3年間の経緯

令和2年、一宮は県下で6番目（蒲郡と同年）の開校の「若者・外国人未来塾」です。会場を一宮中央図書館とし、火曜日（17:30～19:30）と土曜日（17:00～19:00）の実施で、公立や私立の退職教員3人と、県図書館でスタッフをしていた現役大学生の5人体制で始めました。ところが、3月に突然、「緊急事態宣言」が発出されて、全国的に学校や図書館などが閉鎖され、本未来塾も開校が7月に延期となりました。

「学校に居場所がない」と新型コロナの休校明けに退学した高3の生徒や通っていた市の日本語教室が閉鎖されたため「授業が分かるために日本語の勉強がしたい」と外国籍の中学生が来ました。初年度末、引きこもりの高校中退の若者が「動き始めなければ」と通院していたクリニックに掲示していたチラシを見て、通い始めました。また、自立するために職を得たいので高卒認定を目指す中年の方が加わりました。

今年度は外国籍の若者の利用が増えました。日本の中学校を卒業し高校受験に失敗した若者や現地の中学校を卒業して日本の高校を目指す若者が通っています。

## ② 連携と情宣活動

地域協議会のメンバーは、一宮市行政（青少年センター、福祉部、社協、）関係を初め、市職安、市教育委員会、保健所に加えて、不登校親の会、NPO 一宮志民連にも参加をして頂いています。一宮志民連の紹介で、私たちも一宮市民活動支援センターに登録を今年度しました。また、東北大震災の被災者支援のために発足した愛知県被災者支援センターと繋がりました。日本人のみならず、外国籍の若者の教育・進学の支援を求めています。

情宣活動として、1年目の終わりに一宮市近隣の市役所（稲沢市、北名古屋市、清須市）、2年目は中核都市になった一宮市役所（子ども家庭部）、一宮市医師会や稲沢市のフリースペースにも連絡を取りました。

## ③ 成果と課題

高校を中退したばかりの高校生や引きこもりを乗り切る場として未来塾がわずかばかりの働きが出来たと考えます。外国籍の若者の高校受験では、日本の教育制度の理解が十分でない保護者や本人にとって県教委や社協との仲介をしたことは彼らに心強く感じてもらったのではないかと思います。

一方で、精神疾患を患っている利用者の通う社協、デイサービス、医療機関との連携をどうするか。情報交換をしようと思い、利用者さんを通じて社協に問い合わせようとしたら、「個人情報ですから」と拒否されました。また、高校受験を目指している外国籍の若者の手続きで、保護者が日本語が十分できないことなどから未来塾のスタッフが本人を同伴して県教委に出向きましたが、私たちの支援の範囲はどこまでなのかを考えます。保護者や本人だけでは動けない現実があります。

（一宮地区担当 後藤 憲政）

あいち・子どもNPOセンター第36回学習会のお知らせ

## 瀬戸市 にじの丘学園視察研修

### にじの丘小学校【小中一貫校】にじの丘中学校

地域とともにある学校づくりの推進を目指し、瀬戸市は、全市的に中学校ブロックごとの小中一貫教育を進めています。小中一貫教育に伴い、地域におけるゆるやかなネットワークを整え、学校と地域が目標やビジョンを共有し、輝く子どもたちの未来の創造に向けて新しい教育環境づくりに取り組んでいきます。(瀬戸市HPより)

全市的に小中一貫教育を目指す瀬戸市の取り組みを視察見学し、未来を担う次世代のための教育環境整備の実際を学ぶ機会にしていきます。是非ご参加ください!

日時：令和5年1月24日(火) 14:00~

場所：瀬戸市 にじの丘学園

瀬戸市中山町1番地の57 <https://sites.google.com/view/nijinooka/>

#### 申し込み・問い合わせ先

NPO 法人あいち・子どもNPOセンター

TEL/FAX 052-253-6398

E-mail [aichi-kodomo@mountain.ocn.ne.jp](mailto:aichi-kodomo@mountain.ocn.ne.jp)

定員10名  
定員になりしだい  
しめきります

※氏名、所属団体、連絡先、交通手段を記載の上 E-mail または FAX でお申し込みください。

交通手段(自家用車 or 公共交通機関)を必ず記載ください。

公共交通機関を利用される方は、名鉄瀬戸線尾張瀬戸駅前集合して乗り合わせて移動します。

あいち・子どもNPOセンターは、未来を担う子どもたちが健やかに育つ地域社会を実現するために活動しています。

子どもたちが豊かに育つ社会を構築していくために、私たちは今の社会のありようを改めて問い直し、長期的な展望(ビジョン)を持って、何よりも子どもの命が尊ばれ、子どもの人権・意思が尊重されることを考えなければなりません。子どもにとってやさしく暖かい社会は、すべての人(障害児・者や高齢者なども含め)が安心して人間らしく生きられる社会でもあります。

「あい・こどもネット」に登録して仲間になりませんか!

愛知県内の地域における子育て・子育て支援活動のネットワーク化をすすめるため、愛知県内の民間非営利団体による子育て・子育て支援NPO情報サイトです。あいち・子どもNPOセンターホームページ(<http://aichi-kodomo.sakura.ne.jp>)内にあり、登録された愛知県内で活動する子育て・子育て支援NPOの団体情報を探すことができます。

新規に登録を希望される団体は、あいち・子どもNPOセンターまでご連絡ください。

(TEL&FAX:052-253-6398 E-mail:aichi-kodomo@mountain.ocn.ne.jp)